

2020 年度

理工情報系オナー大学院プログラム

学生ハンドブック



## 目次

1	ご挨拶 .....	1
1.1	理工情報系オーナー大学院プログラム 教務委員会委員長	狩野 裕
1.2	理工情報系オーナー大学院プログラム 検討ワーキング主査	田島 節子
1.3	理工情報系オーナー大学院プログラム 特任教授	片山 俊治
2	2020年度 理工情報系オーナー大学院プログラム年間行事予定表 .....	5
3	カリキュラムについて .....	6
3.1	2020年度 理工情報系オーナー大学院プログラム修了要件科目	
	・電子情報、生命科学、フォトニクス、環境材料デザインユニット学生向け	
	・物質科学ユニット学生向け	
	・履修の注意	
3.2	履修スケジュールの一例(4年間)	
3.3	異分野科目一覧	
3.4	理工情報系オーナー大学院プログラム独自科目シラバス (理工情報研究室ローテーション I～IV、理工情報学外研修 I～IV)	
4	進級と修了について .....	13
4.1	Qualifying Examination について	
4.2	最終試験について	
4.3	プログラム修了について	
5	給付型奨学金制度について.....	14
6	プログラム教務委員名簿.....	15

<付 録>

- ◎ 大阪大学 理工情報系オーナー大学院プログラム申合せ
- ◎ 同プログラム 編入生に関する取扱い
- ◎ 同プログラム 履修学生対象 給付型奨学金実施要項
- ◎ 受給要項 ・受給調書 ・振込依頼書 ・誓約書

以上

## 1 ご挨拶

### 1.1 理工情報系オナー大学院プログラムの履修生の皆様へ

理工情報系オナー大学院プログラム(以下オナープログラムという)の履修生の皆様、プログラム選抜試験に合格し履修生となられたことに、まずは、お祝いの言葉を申し上げます。大阪大学大学院に入学して1年、オナープログラムで何をしようかと胸をときめかせておられることでしょう。オナープログラムは履修生の皆様に広い視野と様々な経験を与えてくれるはずです。この機会を十二分に活かして、ひとまわり大きくなってください。

現在日本の大学院生(修士、博士課程両方)は約25万人、15年前が約10万人です。私が大学院生であった1985年前後は2万5千人程度だったと記憶します。Ezra F. Vogelの”Japan as Number One”が出版されたのが1979年。そして、バブル経済を迎え日経平均株価が史上最高値を記録したのが1989年12月でした。その後の平成の時代は日本経済が停滞したのは記憶に新しいところですが、その間、大学院生が約10倍に増えてきたことは皮肉に映ります。大学院修了生の増加は日本の産業の発展に貢献しなかったのでしょうか。大学の学究活動が、産業に直結すべきかどうかは議論のあるところですが、全く異なった方向に向いているとすれば、それは問題かもしれません。

日本の大学は、研究室内で行われる所謂ラボワークには定評があります。しかし、それは一点集中型の人材を養成する傾向があるかもしれません。企業の人事担当者から最近の卒業生・修了生は興味の対象が狭いと聞いたことがあります。また、この30年間で社会状況は様々に変化しましたが、その中でもグローバル化は一番大きな変化でしょう。海外在留邦人(企業派遣駐在者に相当)の数はほぼ単調に増加しており、30年前の約3倍になっています。一方で、国外へ留学する学生(語学留学は除く)は多くなく、2004年をピークに減少しているのが現状です。

このような現状を念頭に、大阪大学の理工情報系では、近隣分野を学び近隣分野の学生・教員と交流することで学問の幅を拡げること、中長期の企業インターンシップや海外留学を経験することで視野を拡げること、これらを達成するためオナープログラムを開設したわけです。履修生の皆様はこの機会を十分に活かし、修了時には一皮むけた自分に出会ってください。そうして社会に羽ばたき、社会的課題の解決に向けて活躍なさることを希望します。

令和2年4月

理工情報系オナー大学院プログラム教務委員会委員長  
基礎工学研究科長  
狩野 裕



## 1.2 理工情報系オーナー大学院プログラム履修生へのメッセージ

本プログラムは、現在大阪大学で実施されている博士課程リーディング大学院プログラムや卓越大学院プログラムにならって、それらでカバーできていない分野をも含めた理工情報系分野全体を対象とした「エリート教育大学院プログラム」です。

日本の(アカデミア以外の)社会においては、学位取得者への評価が海外に比べ低いという問題が、以前から指摘されてきました。それは、博士人材を受け入れる社会(企業)の側にも、博士人材を送り出す大学の側にも問題があるためです。世界が激しく動いている今、社会と大学の両方が努力し、問題解決に動き出さなければ、日本はおそらく取り返しがつかないくらい遅れを取るのではないかと危惧いたします。

企業の側に求められることは、社会課題が全世界的になり、また課題も複雑化している今、いろいろな視点から俯瞰的にものごとをとらえ、解決策を模索していける人材として、博士号取得者が必要なのだという認識を持ってもらうことです。

大学側に求められることは、専門分野の中だけのエキスパートを養成するのではなく、自分の研究が学問分野全体の中で、或は社会の中でどう位置づけられるのかを正しく把握し、他の分野にも目を向けることができるマインドを持った人を育てることです。平たく言えば、蛸壺状態から脱することです。偏差値でランクづけされた大学の序列が厳然と存在する日本では、学部から修士課程、博士課程と進む際に、学生が大学を移動することが著しく起きにくいという状況があります。卒業研究から博士号取得まで、6年間も同一の研究室で研究生活を送るとい状態では、視野を広げるチャンスは奪われていると言ってよいでしょう。本プログラムは、これを打開するための一つの方法を提示するものです。

広い視野を持つことは、アカデミアの世界で研究者として生きていく上でも、とても重要です。少なくとも、他分野の研究者の言葉に耳を傾ける柔軟性を持っていることで、研究の幅が広がりますし、思わぬアイデアに気づくチャンスを得る機会が増えます。異分野融合が世の中で推奨されている理由はここにあります。

もちろん、いきなり全く違う分野の人の話を理解するのは大変です。そこで、本プログラムでは、とりあえず「ユニット」という大まかな枠組みの中で、他研究室に行ってみることに挑戦してもらいます。短期間で新しい研究課題の意味を理解し何等かの結果を出すことは、大変チャレンジングなことであり、うまくいってもいなくても、きっと良い経験となることでしょう。

その次は、学外に出て他の組織で仕事をしてみるという経験をしてもらいます。国内でも十分新しいことを学べると思いますが、できれば海外に行ってみていただきたい。日本が島国であるという事実は変えようがありません。ヨーロッパの人々が容易に地続きの他国と交流するのに比べ、日本人は意識して出ていかなければ、交流ができないのです。真の交流はインターネットだけではダメです。単身で海外に出かけ、研究をしていくという経験で、きっとモノの見方が変わると思います。

本当は、すべての大学院生にこのような経験をしてもらいたいのですが、自分の研究を遂行するだけで精一杯という学生さんも少なくありません。そこで、余力があると思われる特に優秀な皆さんを選び、本プ



プログラムの履修生となってもらいました。

履修生同士の交流も期待しています。教員が思いつかないような新しいアイデアで、活動を広げていただければと思います。

4年後の皆さんの成長を楽しみに、すべての教員が全力で支援いたします。

令和元年度 理学研究科長  
理工情報系オーナー大学院プログラム検討ワーキング主査  
田島節子

### 1.3 理工情報系オーナー大学院プログラム特任教授からのメッセージ

理工情報系オーナー大学院プログラムの履修生のみなさん、はじめまして。本年2月に理工情報系オーナー大学院プログラムの特任教授に着任した片山です。

みなさんが栄えある第一期生となった本プログラムは、大阪大学の理工情報系の全研究科、研究所、センターが一体となって運営する博士課程プログラムです。みなさんが所属する研究科・専攻での専門課程科目に加え、本プログラムが提供する特別科目や指定する科目を履修することで、自らの専門分野の研究を深めるだけでなく、視野を広げ、異分野や新分野にも分け入っていきける力を獲得してもらうことを目的としています。

私は、本学を修了後、30年以上民間企業にいましたので、そこで培ったマネジメント経験や様々な活動経験を活かし、本プログラムを履修する博士課程学生の皆さんがプログラムを修了できるように全力で支援していくつもりです。そして、履修生のみなさんには、プログラムをより良きものにしていくための大切なお願いがあります。

本プログラムの特別科目である「研究室ローテーション」や「学外研修」を最大限に活用するため周到に準備をしてください。前者は、他専攻・他研究科や研究所等でも授業を受けたり、研究体験ができ、後者は、国内の企業・研究所での研究体験や海外への短期留学ができる魅力的な科目です。貴重な科目ですので、履修内容についてだけでなく、履修時期をどうするか、所属研究室での研究との調整をどうするか等、山ほどの事前検討にも真摯に取り組み、企画力、交渉力、セルフマネジメント能力も鍛えてください。

また、履修生のみなさん同士の交流ができる場を設定する予定にしていますので、積極的に参加し、知識や人脈づくりに活用してください(未定ですが、合宿等のイベントも候補にあります。一緒に企画してくれる履修生募集中です)。また、履修生のみなさんの自主的な活動も大いにバックアップします。提案を大いに歓迎します。

プログラム履修計画の検討や進捗状況の確認等のため、面談等を行うことがありますので、その際には事前準備や時間確保等の協力をお願いします。面談以外でもプログラムのこと、それ以外のこと、種々の相談にも乗りますので、気軽に連絡ください。

本プログラムの期間は M2～D3 までの4年間です(D1 からの参加も可能)。一緒にプログラムをより良いものにしていきましょう。そして、4年後(or 3年後)にプログラムを修了して大きく成長した姿を見せてくれることを楽しみにしています。同時に、後進の学生たちにも、その姿を見せることで、本プログラムの魅力を伝えてくれることを期待しています。



国際共創大学院学位プログラム推進機構  
理工情報系オーナー大学院プログラム 特任教授  
片山俊治



## 2. 2020年度 理工情報系オナー大学院プログラム行事予定表<sup>注1</sup>

	月	日(曜)	学 務 事 項	
春 夏学期	春学期	4	1(水)	理工情報系オナー大学院プログラム新入生全体オリエンテーション
		2(木)	大学院入学式(大阪城ホール) (今年度は中止)	
		8(水) <sup>注2</sup>	春～夏学期他部局科目履修登録期間(～4/16)	
		9(木)	春～夏学期(～9/30)、春学期(～6/10)授業開始	
	5	1(金)	いちよう祭準備、大阪大学創立記念日 (今年度は中止)	
		2(土)	いちよう祭 (今年度は中止)	
		3(日)	いちよう祭 (今年度は中止)	
		4(月)	いちよう祭片付け (今年度は中止)	
	夏学期	6	10(水)	春学期授業終了
		11(木) <sup>注2</sup>	夏学期(～9/30)授業開始、夏学期他部局科目履修変更登録期間(～6/17)	
		8	7(金)	春～夏学期、夏学期授業終了
			8(土) <sup>注3</sup>	夏季休業(～9/30)
		9	24(木)	秋～冬学期(秋入学通年科目を含む)他部局科目履修登録開始(～10/8)
			25(金)	学位記授与式
			30(水)	夏季休業終了
秋 冬学期	秋学期	10	1(木)	秋～冬学期(～3/31)、秋学期(～12/1)授業開始
		11	19(木)	大学祭準備(授業休業)
			20(金)～22(日)	大学祭(授業休業)
			23(月)	大学祭片付け
	12	1(火)	秋学期授業終了	
		2(水) <sup>注2</sup>	冬学期授業開始(～3/31)、冬学期他部局科目履修変更登録期間(～12/8)	
		下旬	学外研修報告会	
		26(土) <sup>注3</sup>	冬季休業(～1/3)	
		1	4(月)	授業再開
	冬学期	2	5(金)	秋～冬学期、冬学期授業終了
			中旬	Final Examination 最終試験(博士後期課程修了予定者) ※ユニット合同
			下旬～3月	QE (Qualifying Examination) ※ユニットごとに異なる
		3	12(金)	修士・博士課程修了者発表
			20日頃	プログラム修了式 ※修了者のいる場合
	24(水)	修士・博士学位記授与式(大阪城ホール)		

注1 上記日程等に変更されることがあります。変更が生じる場合はKOAN掲示などでお知らせします。

注2 履修登録時期は大学院によって異なります。

注3 休業開始時期は大学院によって異なります。

注4 上記以外に研究室ローテーション報告会、昼食会、合宿等のイベントが加わる可能性があります。その際は別途ご連絡します。

### 3 カリキュラムについて

#### 3.1 2020年度 理工情報系オナー大学院プログラム修了要件科目

＜電子情報、生命科学、フォトニクス、環境材料デザインユニット学生向け＞

カテゴリー	必要 単位数	時間割 コード	科目名	単位数	開講(提供)部局	
研究室ローテーション <sup>(1)</sup>	1	4	24H001	理工情報研究室ローテーションⅠ	3週間で1	理学研究科
			24H002	理工情報研究室ローテーションⅡ		
			24H003	理工情報研究室ローテーションⅢ		
			24H004	理工情報研究室ローテーションⅣ		
海外・国内研修 <sup>(1)</sup>	1	4	24H005	理工情報学外研修Ⅰ	3週間で1	理学研究科
			24H006	理工情報学外研修Ⅱ		
			24H007	理工情報学外研修Ⅲ		
			24H008	理工情報学外研修Ⅳ		
英語科目群	2	2	241811	実践科学英語A	1	理学研究科
			241812	実践科学英語B	1	
			249609	科学英語基礎	1	工学研究科
			280612	工学英語Ⅰ	2	
			280613	工学英語Ⅱ	2	基礎工学研究科
			春夏290738 秋冬299738	科学技術英語	2	
			春夏331006 秋冬331007	英語プレゼンテーション	2	情報科学研究科
			春夏9C0003 秋冬9C0006	物質科学英語1S/A(writing)	2	インタラクティブ物質科学・カ デットプログラム
春夏9C0007 秋冬9C0010	物質科学英語2S/A(speaking)	2				
異分野(他専攻・他研究科)科	2		各研究科開講の専門科目 <sup>(2)</sup>	-	各研究科	
ELSI(倫理・法・社会問題)科 目群	2	2	集中3B2504	科学技術コミュニケーション演習 <sup>(3)</sup>	2	COデザインセンター
			3B1203	科学技術コミュニケーション入門A <sup>(3)</sup>	1	
			夏3B1202 冬3B1204	科学技術コミュニケーション入門B	1	
			3B1112	ファシリテーション入門 <sup>(3)</sup>	1	
			3B1703	科学史・科学哲学入門	1	
			3B1704	科学技術社会論入門	1	
			3B1604	科学技術と公共政策A <sup>(3)</sup>	1	
			3B1605	科学技術と公共政策B <sup>(3)</sup>	1	
			3B1309	特別講義(Effectively Communicating Your Science & Research) <sup>(3)</sup>	2	
			3B1528	特別講義(Climate Change in Asia Pacific - Science and Solutions) <sup>(3)</sup>	2	
			9C0020	科学史	2	インタラクティブ物質科 学・カデットプログラム
			9C0021	物質科学キャリアアップ特論a	2	
			9C0022	物質科学キャリアアップ特論b	2	
			281253	イノベーションデザイン実践	2	産学共創本部 (工学研究科)
			集中281357	ビジネスデザイン実践	2	ナノサイエンスデザイン教育 研究センター (基礎工学研究科)
			集中290730	ナノテクノロジー社会受容特論A(偶数年開講)	2	
			集中290734	ナノテクノロジー社会受容特論B(奇数年開講)	2	
290627	ナノテクキャリアアップ特論	2	産業科学研究所 (全学教育推進機構(大学院))			
C50602	産業科学特論	2				
合計	10					

<sup>(1)</sup> 研修(国内・海外)と研究室ローテーションは、3週間で1単位と換算し、いずれも最低1単位(研修は国内・海外のどちらか一方で構わない)の取得を必須とし、研修と研究室ローテーションの組み合わせの合計により、4単位以上。

<sup>(2)</sup> 異分野科目は、理学研究科、工学研究科、基礎工学研究科及び情報科学研究科から提供された授業科目により構成され、各授業科目については別に定める。

<sup>(3)</sup> 定員あり。KOAN掲載の各シラバスで確認すること。

＜物質科学ユニット学生向け＞

物質科学ユニット（インタラクティブ物質科学カデットプログラム・準履修生）修了要件

物質科学ユニットコア科目

科目名	単位数		備考
	必修	選択 必修	
物質科学研究室ローテーション1（注1）	2		
物質科学国内研修1（注2）		2	I、II、IIIの各群からそれぞれ2単位以上修得すること。
物質科学海外研修1（注3）		2	
物質科学英語1(writing)		2	
物質科学英語2(speaking)		2	
科学史		2	
物質科学キャリアアップ特論a		2	
物質科学キャリアアップ特論b		2	

研究室ローテーション・各研修の実施期間について（他ユニットと実施期間等が異なります）

（注1）連続する約3か月間（20時間程度/週）

（注2）連続する約3か月間

（注3）連続する40日～90日

異分野専門科目

授業科目	備考
A群科目（物理系）	A,B,C群の中から2単位以上修得すること。
B群科目（化学系）	
C群科目（材料・プロセス系）	

（注）異分野専門科目は、理学研究科、工学研究科及び基礎工学研究科から提供された授業科目により構成され、各授業科目については別に定める。

（履修方法）

物質科学ユニットコア科目から必修単位2単位、選択必修科目6単位、異分野専門科目から2単位以上を含む計10単位以上修得すること。

## ◇ 履修の注意

### <物質科学ユニットの履修生>

インタラクティブ物質科学カデットプログラムの指示に従うこと。

### <物質科学ユニット以外のユニット履修生>

#### 1 理工情報研究室ローテーション・理工情報学外研修について

- ・履修登録は理工情報系オナー大学院プログラム事務局で行います。時期、場所がおおよそ決まってきたら、履修期間の登録時期に関わらず、いつでもよいのでまずは事務局へ連絡を入れてください。
- ・シラバス上、研究室ローテーションおよび学外研修の開講区分は、大学院博士後期課程に設定されていますが、前期課程の方も履修可能です。
- ・理工情報研究室ローテーションⅠ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳは、シラバス上、同一内容です。
- ・研究室ローテーション、学外研修とも3週間で1単位とし、数字の順に履修していく「積み上げ科目」です。6週間以上の場合、2単位とし、3週間毎に1単位を追加します。

例) 6週間の研修を行う場合:「研究室ローテーションⅠ」および「研究室ローテーションⅡ」を事務局で履修登録します。

#### 2 カデットプログラムが提供する科目を履修する場合

英語科目群、ELSI 科目群にあるカデットプログラムが提供する科目を履修したい場合、学生さん自身では履修登録ができないため、オナー大学院プログラム事務局が指定する期限までに履修登録の意思をオナー大学院プログラム事務局へメールにてご連絡ください。(当事務局からカデットプログラム事務局へまとめて登録の依頼を行います。)

#### 3 その他

自分が所属する以外の他研究科が開講する科目を履修する場合、KOAN 掲示板の「【通知】授業開始日・履修登録・変更登録・履修取消期間」のお知らせを参考に履修登録を行ってください。自研究科における履修登録と異なる場合がありますので注意してください。

異分野科目については、事前にユニット教務委員の承認を得ることが必要なユニットがあるので、日にちに余裕を持って担当教員へ確認を行ってください。また、異分野科目を履修登録したら、プログラム事務局に連絡してください。事務局でみなさんのオナー修了に関する履修登録状況を把握していく予定です。

### 3.2 履修スケジュールの一例（4年間）

		選択必修科目	単位
1年次	M2	春夏学期 英語科目群	2
		秋冬学期 ELSI科目群	1
		(修士論文提出)	-
		Qualifying Examination	-
2年次	D1	春夏学期 異分野科目群	2
		研究室ローテーション 6週間	2
		秋冬学期 ELSI科目群	1
3年次	D2	春夏学期 学外研修 6週間	2
		秋冬学期	-
4年次	D3	春夏学期	-
		秋冬学期 (博士論文提出)	-
		Final Examination	-
		プログラム必修要件	10

注) 4年間で所定の単位を取得すればよい。特定の年次に取得を義務付ける科目はありません。

### 3.3 異分野科目一覧

異分野科目の履修についてはユニットごとに下記のように定めています。

ユニット名	異分野科目						
01.電子情報	当該大学院生の所属専攻以外で開講されているすべての高度教養教育科目を対象とする。						
02.生命科学	高度教養科目のうち生命科学分野ではない内容の科目を対象とする。 (履修登録前に生命科学ユニット教務委員の承諾を得ること)						
03.フォトニクス	当該大学院生の所属専攻以外で開講されている全ての高度教養教育科目を対象とする。						
04.基礎物理宇宙	当該大学院生の所属専攻以外で開講されている全ての高度教養教育科目を対象とする。						
05.環境材料デザイン	開講科目名称	学期区分名	単位数	担当教員	曜日名	時限	時間割所属
	レーザプロセス学	秋学期	2	佐藤 雄二	金	2	工学研究科 博士前期課程
	機能材料学	夏学期	2	伊藤 和博	火	3	工学研究科 博士前期課程
	機能性評価学	秋学期	2	柳楽 知也	金	1	工学研究科 博士前期課程
	材料機能化設計学	秋学期	2	茂田 正哉	火	1	工学研究科 博士前期課程
	数値構造解析	秋学期	2	麻 寧緒	火	4	工学研究科 博士前期課程
	材料電磁プロセス学	秋学期	2	節原 裕一	月	2	工学研究科 博士前期課程
	機械材料学	秋学期	2	梅田 純子	金	1	工学研究科 博士前期課程
	接合プロセスメタラジー論	秋学期	2	井上 裕滋	金	2	工学研究科 博士前期課程
	ナノ界面設計学	春学期	2	梅田 純子	水	2	工学研究科 博士前期課程
先端環境材料・資源循環利用システム学特論	秋学期	2	西川 宏	月	1	工学研究科 博士前期課程	
06.物質科学(カデット)	大阪大学博士課程教育リーディングプログラム インタラクティブ物質科学・カデットプログラムハンドブックに記載された科目の中から履修すること。						

### 3. 4 理工情報系オナー大学院プログラム独自科目シラバス

※理工情報研究室ローテーション、学外研修とも、履修登録はオナー大学院プログラム事務局で行いますので、早めに事務局へご連絡ください。

#### 基本情報

時間割コード	24H001-24H004
開講区分(開講学期)	集中
曜日・時間	他
開講科目名	理工情報研究室ローテーション I-IV
教室	
開講科目名(英)	Science, Engineering and Informatics Laboratory Rotation I-IV
ナンバリング	
単位数	1.0
年次	1,2,3年
担当教員	片山 俊治

#### 基本項目

履修対象	理学研究科, 工学研究科, 基礎工学研究科, 情報科学研究科の大学院生
履修年次	
履修その他	
必修・選択	

#### 詳細情報

講義題目	理工情報研究室ローテーション I-IV
開講言語	日本語
授業形態	実習科目
授業の目的と概要	自らの専門分野の研究を深く追究するだけでなく、視野を広げ、異分野や新分野にも分け入っていきける力を獲得することを目的とする。 そのため、他研究室（原則として同一ユニット内で他専攻・他研究科等を推奨。他ユニットの研究室を希望することも可能）に3週間以上滞在して、新しい研究手法、新しい研究課題に取り組む。
学習目標	他専攻・他研究科等の他研究室に3週間以上滞在して、新しい研究手法、新しい研究課題に取り組むことにより、自分の研究室では得ることのできない能力の獲得を目指す。
履修条件・受講条件	理工情報系オナー大学院プログラムの履修生であること。 (理工情報系オナー大学院プログラムは、本学理学研究科, 工学研究科, 基礎工学研究科, 情報科学研究科のM1に対し募集を行い、選考に通った院生がM2からD3までの4年間で履修するプログラムである。)
授業計画	研究計画は、各受け入れ研究室の指示に従う。
授業外における学習	レポート、及び、報告会用プレゼンテーション資料を作成する。
教科書・教材	各受け入れ研究室の指示に従う。
参考文献	各受け入れ研究室の指示に従う。
成績評価	研修受け入れ者の評価書やレポートなどで総合的に評価する。
コメント	
特記事項	履修時期については、研究の進捗状況を考慮し、所属研究室の指導教員、所属ユニット担当教員と相談し、決めること。理工情報系オナー大学院プログラムのユニットによっては、別の研究室ローテーション科目を履修する可能性があるため、事前にプログラム事務局に確認の上、履修登録すること。
オフィスアワー	

#### 授業担当教員

教員氏名	居室	内線	FAX	e-mail
片山俊治	理学研究科B101	8396		katayama@cn.sci.osaka-u.ac.jp

#### 学生への注意書き

--

## 基本情報

時間割コード	24H005-24H008
開講区分(開講学期)	集中
曜日・時間	他
開講科目名	理工情報学外研修 I-IV
教室	
開講科目名(英)	Science, Engineering and Informatics Internship I -IV
ナンバリング	
単位数	1.0
年次	1,2,3年
担当教員	片山 俊治

## 基本項目

履修対象	理学研究科, 工学研究科, 基礎工学研究科, 情報科学研究科の大学院生 博士後期課程での履修が好ましい。履修時期については、研究の進捗状況を考慮し、所属研究室の担当教員、所属ユニット担当教員と相談し、決めること。
履修年次	
履修その他	
必修・選択	

## 詳細情報

講義題目	理工情報学外研修 I -IV
開講言語	日本語・英語
授業形態	実習科目
授業の目的と概要	自らの専門分野の研究を深めるだけでなく、視野を広げ、異分野や新分野にも分け入っていきける力を獲得することを目的とする。 そのため、大学の研究室を離れて、企業や公的機関など学外の組織や、海外の大学・研究機関に3週間以上滞在して、異分野・新分野、さらには、異文化を体験する。
学習目標	異分野・新分野を体験することで、科学技術の広がり認識し、視野を広げ、異分野や新分野にも分け入っていきける力を獲得することを目標とする。また、異文化を体験することで、多様な考え方を理解し、社会人としての教養を深めることも目標とする。
履修条件・受講条件	理工情報系オーナー大学院プログラムの履修生であること。 (理工情報系オーナー大学院プログラムは、本学理学研究科, 工学研究科, 基礎工学研究科, 情報科学研究科のM1に対し募集を行い、選考に通った院生がM2からD3までの4年間で履修するプログラムである。)
授業計画	個別の学外研修計画に従う。 (研修先や研修内容を、事前に担当教員と話し合っ決める。)
授業外における学習	研修先、研修先の研究テーマについて事前に自主調査する。 レポート、及び、報告会用プレゼンテーション資料を作成する。
教科書・教材	
参考文献	
成績評価	研修受け入れ者の評価書やレポートなどで総合的に評価する。
コメント	
特記事項	理工情報系オーナー大学院プログラムのユニットによっては、別の学外研修科目を履修する可能性もあるので、事前にプログラム事務局に確認の上、履修登録すること。 なお、国内研修、海外研修にかかる費用は支援される。
オフィスアワー	

## 授業担当教員

教員氏名	居室	内線	FAX	e-mail
片山俊治	理学研究科B101	8396		katayama@cn.sci.osaka-u.ac.jp

## 学生への注意書き

--



## 4 進級と修了について

理工情報系オーナー大学院プログラムの履修生は、所属研究科の博士前期課程修了とは別に博士後期課程に進級する際に本プログラムの Qualifying Examination (QE)を受験し、また、博士後期課程修了時に本プログラムの最終試験を受けることが定められている。

なお、物質科学とヒューマンウェアの2ユニットは、博士課程教育のリーディングプログラムの一環、量子ビーム応用ユニットは卓越大学院プログラムの一環であるため、以下に示す進級と修了についての内容とは異なる。上述した3ユニットの履修生は、それぞれのプログラムでの進級と修了の要件を確認すること。

### 4.1 Qualifying Examination (QE)について

QE は、修士2年次の2月下旬～3月頃に行う。審査はユニット単位で行い、審査の方法等に関し必要な事項は、ユニットごとに定める。QE に合格した場合、進級し、プログラム履修を継続することができる。不合格の場合、もしくは所属研究科で博士後期課程に進級できなかった場合は、履修生の資格を失う。

### 4.2 最終試験について

当該年度の博士後期課程修了予定者に対する最終試験は、2月中旬頃に行う。履修生は、所属研究科での博士論文審査を終えた後、本プログラムの修了審査会で成果を発表する。審査会での評価が基準以上の場合、最終試験に合格となる。

### 4.3 プログラム修了について

以下の要件をすべて満たした場合、本プログラムの修了を認定し、プログラム修了証を授与する。

- (1) 在籍する研究科の所定の課程を修了すること。
- (2) 「理工情報研究室ローテーション I～IV」と「理工情報学外研修 I～IV」からそれぞれ1科目1単位以上を含む合計4単位以上、英語科目群、異分野専門科目群、ELSI科目群からそれぞれ2単位以上、合計10単位以上を修得すること。<sup>(\*)</sup>
- (3) 本プログラムの最終試験に合格すること。

<sup>(\*)</sup> プログラム修了要件単位の一部を所属研究科の博士前期課程・後期課程修了要件単位に含めることは可とする。ただし、どの単位を大学院修了要件内の単位として認めるかは、各研究科の判断となる。

## 5 給付型奨学金制度について

大阪大学では、理工情報系オーナー大学院プログラム履修学生を対象に、学生からの受給申請に基づき、選考を経た上で給付型奨学金を支給する制度を用意しています。給付型奨学金は、「学資に充てるため給付される金品」として「非課税所得」となるので、課税対象にはなりません。

2020年度は、年額で

博士前期課程学生：24万円

博士後期課程学生：54万円

を予定しています。

なお、本奨学金の受給資格については、支給年度において、次の各号に掲げる全ての基準に該当することとします。

- 1) 休学をしていないこと。
- 2) 独立行政法人日本学術振興会の特別研究員(DC)として採用されていないこと。
- 3) 国費留学生として、日本政府(文部科学省)奨学金を受給していないこと。
- 4) 月額10万円を超える給付型奨学金(ただし、留学の支援を目的とするものは除く。)を受給していないこと。

本奨学金を受給しながら、所属部局のTA、RA活動を行い、給与を受け取ることについては本プログラムとしては特に制限はかけていませんが、所属研究科によって規則を定めているところもありますので、ご自身で確認をとってみてください。奨学金の申請方法等の詳細については、巻末の付録、「大阪大学 理工情報系オーナー大学院プログラム履修学生対象給付型奨学金実施要項」「同受給要項<新1期生対象>」を参照してください。また、疑問点があれば、オーナー大学院プログラム事務局へお問合せください。

## 6 プログラム教務委員名簿

氏名	所属・役職	本プログラムにおける役割	連絡先
狩野 裕	基礎工学研究科 システム創成専攻／統計数理講座 (データ科学研究グループ)・研究科長・ 教授	プログラム 教務委員長	kano@sigmath.es.osaka-u.ac.jp
大岩 顕	産業科学研究所 第1研究部門(情報・量子科学系)／ 量子システム創成研究分野・教授	電子情報 ユニット長	oiwa@sanken.osaka-u.ac.jp
原田 慶恵	蛋白質研究所 蛋白質化学研究部門／蛋白質ナノ科 学研究室・教授	生命科学 ユニット長	yharada@protein.osaka-u.ac.jp
吉村 政志	レーザー科学研究所 光量子ビーム科学研究部門／超広帯 域フォトンクス(UP)グループ・教授	フォトンクス ユニット長	yoshimura-m@ile.osaka-u.ac.jp
青井 考	核物理研究センター 核物理実験研究部門・教授	基礎物理宇宙 ユニット長	aoi@rcnp.osaka-u.ac.jp
桐原 聡秀	接合科学研究所 スマートプロセス研究センター／ ナノ・マイクロ構造制御プロセス学 分野・教授	環境材料デザイン ユニット長	kirihara@jwri.osaka-u.ac.jp
芦田 昌明	基礎工学研究科 物質創成専攻／微小物質ダイナミクス 講座(微小物質コヒーレンスグルー プ)・教授	物質科学 ユニット長	ashida@mp.es.osaka-u.ac.jp
清水 浩	情報科学研究科 バイオ情報工学専攻/代謝情報工学 講座・教授	ヒューマンウェア ユニット長	shimizu@ist.osaka-u.ac.jp
片山 俊治	国際共創大学院学位プログラム推進 機構・特任教授	プログラム 特任教授	katayama@cn.sci.osaka-u.ac.jp



# 付 録



(令和2年3月18日)

理工情報系オーナー大学院プログラム運営委員会承認)

## 大阪大学理工情報系オーナー大学院プログラム申合せ

### (趣旨)

第1条 この申合せは、大阪大学(以下、「本学」という。)の学生に対して提供される大阪大学理工情報系オーナー大学院プログラム(以下、「本プログラム」という。)に関し、必要な事項を定めるものとする。

2 運営の基礎単位として学内の理工情報系部局を横断的に専門分野別にまとめたユニットをおく。ただし、博士課程教育リーディングプログラム、卓越大学院プログラムが主体となるユニットの運営については、それぞれのプログラムの規定等に従うものとする。

### (目的)

第2条 本プログラムは、履修生が理工情報系における自らの専門分野の研究を深く追究するだけでなく、視野を広げ、異分野や新分野にも分け入っていける力を獲得することを目的とする。

### (出願資格等)

第3条 本プログラムの履修を志願することができる者は、本学大学院の理学研究科、工学研究科、基礎工学研究科、情報科学研究科の博士課程の前期課程に在籍する者とする。

2 前項に規定する研究科の博士課程の後期課程に入学する学生で、本プログラムの履修を志願する者については、別に定めるところにより、出願を認めることがある。

### (出願)

第4条 本プログラムの履修を志願する者(以下「履修志願者」という。)は、所定の期日までに履修願書に別に定める書類を添えて、国際共創大学院学位プログラム推進機構長(以下「機構長」という。)に提出しなければならない。

### (選抜)

第5条 機構長は、履修志願者に対し、書類選考及び面接試験を行い、志望理由を記載した書類、成績証明書等を総合して履修を許可すべき者を決定する。

### (標準履修年限)

第6条 本プログラムの標準履修年限は、4年とする。

2 前項の規定にかかわらず、秋季入学の学生及び第3条第2項の規定により出願を認められた者で、前条の規定により履修を許可された学生(以下「編入学生」という。)の標準履修年限については、別に定める。

(教育方法)

第7条 本プログラムの教育は、理工情報系オナー大学院プログラム科目として本プログラムが開設する授業科目及び関連する研究科等において開設する授業科目の授業等によって行う。

(授業科目の区分、科目名及び単位数)

第8条 授業科目の区分、科目名及び単位数は、別表のとおりとする。

(単位の計算方法)

第9条 授業科目の単位の計算は、次のとおりとする。

- (1) 講義は、15時間をもって1単位とする。
- (2) 演習は、30時間をもって1単位とする。ただし、授業科目により15時間をもって1単位とすることがある。
- (3) 実験及び実習は、45時間をもって1単位とする。
- (4) 一の授業科目について、講義、演習、実験又は実習のうち2以上の方法の併用により行う場合については、その組み合わせに応じ、前3号に規定する基準を考慮して定める時間の授業をもって1単位とする。

(履修手続)

第10条 第5条の規定により本プログラムの履修を許可された学生(以下「履修学生」という。)は、所定の期日までに履修しようとする授業科目を機構長に届け出て、受講登録をし、許可を得なければならない。

(履修方法)

第11条 履修学生は、別表に定める履修方法により、10単位以上を修得しなければならない。

(試験及び評価)

第12条 履修した各授業科目の合否は、筆記試験又は口頭試験によって決定する。ただし、試験に代わる方法 によることもできる。

2 各授業科目の試験の成績は、100点を満点として次の評価をもって表し、S、A、B及びCを合格、Fを不合格とする。

S(90点以上)

A(80点以上90点未満)

B(70点以上80点未満)

C(60点以上70点未満)

F(60点未満)

3 前2項の規定により合格した者については、所定の単位を与える。



(進級)

第13条 博士後期課程進学前に実施する本プログラムの Qualifying Examination の審査に合格した者は、本プログラムを継続履修することができる。

2 前項の進級に係る審査の方法等に関し必要な事項は、ユニットごとに別に定める。

(修了)

第14条 履修学生が第6条第1項で定める標準履修年限在籍し、次の各号の要件をすべて満たした場合は、機構長は、国際共創大学院学位プログラム推進機構会議の議を経て、本プログラムの修了を認定する。

- (1) 在籍する研究科(以下「在籍研究科」という。)の所定の課程を修了すること。
- (2) 第11条の規定に従い所定の単位を修得すること。
- (3) 本プログラムの最終試験に合格すること。

2 在籍期間については、前項の規定にかかわらず、履修学生が在籍研究科において大学院学則第15条第4項、第5項、又は第7項ただし書の規定を適用される場合にあっては、本プログラムに当該期間在籍すれば足りるものとする。

3 本プログラムを修了した者には、プログラム修了証を授与する。

(履修資格の失効)

第15条 履修学生が、転学、退学、除籍等により本学大学院の学生でなくなった場合又は第13条に定める審査及び第14条に定める最終試験において不合格となった場合は、本プログラムの履修資格を失うものとする。

(履修の辞退)

第16条 履修学生が本プログラムの履修の辞退を特に希望する場合は、機構長に願い出て、許可を得なければならない。

(履修の停止)

第17条 履修学生が休学した場合は、その期間は本プログラムを履修することはできない。

(雑則)

第18条 この申合せに定めるもののほか、本プログラムに関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この申合せは、令和2年4月1日から施行する。

## 大阪大学理工情報系オーナー大学院プログラム編入学生に関する取扱い

### (趣旨)

第1条 この申合せは、大阪大学理工情報系オーナー大学院プログラム申合せ(以下「プログラム申合せ」という。)に基づき第3条第2項の規定により出願を認められた者で、第5条の規定により、大阪大学理工情報系オーナー大学院プログラム(以下「本プログラム」という。)の履修を許可された学生及び秋季入学した博士前期課程の学生(以下「編入学生」という。)の取扱いに関し、必要事項を定めるものとする。ただし、博士課程教育リーディングプログラム、卓越大学院プログラムが主体となるユニットの運営については、それぞれのプログラムの規定等に従うものとする。

### (標準履修年限)

第2条 編入学生のうち、在籍研究科に10月入学して翌年4月に履修を許可された者の標準履修年限は4年6月とし、翌々年4月に履修を許された者の標準履修年限は3年6月とする。博士後期課程に1年次4月に履修を許可された者の標準履修年限は3年とする。

### (授業科目の区分、科目名及び単位数)

第3条 授業科目の区分、科目名及び単位数は、プログラム申合せに掲げる別表のとおりとする。

### (履修方法)

第4条 履修方法は、プログラム申合せに掲げる別表に定める履修方法により、10単位以上を修得しなければならない。

### (修了)

第5条 編入学生が第2条で定める標準履修年限在籍し、次の各号の要件をすべて満たした場合は、機構長は国際共創大学院学位プログラム推進機構会議の議を経て、本プログラムの修了を認定する。

- (1) 在籍する研究科の所定の課程を修了すること。
- (2) プログラム申合せ第11条の規定に従い所定の単位を修得すること。
- (3) 本プログラムの最終試験に合格すること。

2 編入学生の在籍期間については、前項の規定にかかわらず、在籍研究科において大学院学則第15条第4項、第5項又は第7項ただし書の規定が適用される場合にあっては、当該期間から1年減じた期間、在籍すれば足りるものとする。

### 附 則

この内規は、令和2年4月1日から施行する。

## 大阪大学 理工情報系オーナー大学院プログラム履修学生対象 給付型奨学金実施要項 (案)

### (目的)

第1条 この要項は、国立大学法人大阪大学(以下「本学」という。)が、理工情報系オーナー大学院プログラム(以下「本プログラム」という。)申合せに基づき履修を許可された学生の中で特に優秀な学生(以下「履修学生」という。)に支給する資金(以下「給付型奨学金」という。)に関して必要な事項を定めることを目的とする。

2 給付型奨学金(以下「本奨学金」という。)は、所得税法第9条第1項第15号に規定する「学資に充てるため給付される金品」として支給され、所得税は課せられない。

3 運営の基礎単位として学内の理工情報系部局を横断的に専門分野別にまとめたユニットをおく。ただし、博士課程教育リーディングプログラム、卓越大学院プログラムが主体となるユニットの運営については、それぞれのプログラムの規定等に従うものとする。

### (給付型奨学金の受給資格)

第2条 本奨学金の受給資格は、支給年度において、次の各号に掲げる全ての基準に該当することとする。

- (1) 休学をしていないこと。
- (2) 独立行政法人日本学術振興会の特別研究員(DC)として採用されていないこと。
- (3) 国費留学生として日本政府(文部科学省)奨学金を受給していないこと。
- (4) 月額10万円を超える給付型奨学金(ただし、留学の支援を目的とするものは除く。)を受給していないこと。

### (給付型奨学金の支給額)

第3条 本奨学金の支給額は、博士前期課程2年次の履修学生にあつては年額24万円、博士後期課程の履修学生にあつては年額54万円に定めるものとする。

### (給付型奨学金受給学生の選考)

第4条 本奨学金の受給を希望する履修学生は、年度ごとに定められた期間内に、別に定める奨学金受給調書によりプログラム責任者へ申請するものとする。

2 本奨学金を受給する履修学生(以下「本奨学金受給学生」という。)の選考は、プログラム責任者のもと、実施するものとする。

### (給付型奨学金の返還)

第5条 本奨学金は、返還を要しない。

2 前項の規定にかかわらず、第2条第1号から第4号までのいずれかの基準を満たしていないことが明らかとなった場合及び第9条に定める支給の停止要件に該当するにも関わら

ず、必要な手続きがなされていなかった場合は、本奨学金受給学生は、事実発生時に遡って支給済みの奨学金の一部又は全部を返還しなければならない。

(給付型奨学金の財源)

第6条 本奨学金の財源は、本学の運営費交付金等をもって充てる。

(誓約書)

第7条 本奨学金受給学生は、奨学金の支給に当たって第2条第1号から第4号までのすべての基準を満たしているか等を誓約するため、定められた期間内に所定の誓約書を作成してプログラム責任者へ提出するものとする。

(給付型奨学金の支給方法)

第8条 本奨学金は、原則として毎月25日(当日が土日祝祭日の場合は、原則としてその直前の平日とする。)に、本奨学金受給学生の指定する銀行口座に振り込むことにより支給する。

2 前項の規定にかかわらず、支給開始時において、特別な事情があるときは、数ヶ月分を取りまとめて振り込むことにより支給することができるものとする。

(支給の停止)

第9条 本奨学金受給学生の大学院課程又はプログラムにおける学業成績及び履修状況が不良であるとプログラム責任者が判断した場合又は長期欠席をした場合は、本奨学金の支給を停止することがある。

2 本奨学金受給学生が、在籍する本学大学院の課程(以下「大学院課程」という。)を退学若しくは除籍となった場合又は Qualifying Examination 等の審査(以下「審査」という。)によりプログラムを履修しなくなった場合は、本奨学金の支給を停止する。

3 前項の規定にかかわらず、審査で不合格となった場合において、猶予期間を与える等の措置を明確に定めたときは、支給年度末まで支給を継続することができる。

4 本奨学金受給学生が、大学院課程の原級にとどまることが決定した場合は、本奨学金の支給を停止する。ただし、原級にとどまる相当の事由があるとプログラム責任者が特に認めた場合は、支給年度末まで支給を継続することができる。

5 本奨学金受給学生が、休学をした場合は、休学期間の本奨学金の支給を停止する。

6 本奨学金受給学生が、死亡した場合は、本奨学金の支給を停止する。

7 本奨学金受給学生が、特に希望する場合は、所定の手続きを経て本奨学金の支給を停止することができる。

8 本奨学金受給学生が、プログラムを継続しない意向を表明した場合は、本奨学金の支給を停止する。

(事務)

第10条 本奨学金に関する事務は、理工情報系オーナー大学院プログラム参加部局とプログ

ラム事務室が連携して行う。

(雑則)

第11条 この要項に定めるもののほか、本奨学金に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この要項は、令和2年4月1日から施行し、令和2年度4月分の奨学金の支給から適用する。

附 則

この要項は、令和2年4月14日から施行し、令和2年度4月分の奨学金の支給から適用する。

2020年度 大阪大学理工情報系オーナー大学院プログラム履修学生対象  
給付型奨学金受給要項<新1期生対象>

1. 受給申請

大阪大学理工情報系オーナー大学院プログラム履修学生対象給付型奨学金実施要項を熟読の上、受給を希望する者は下記受給申請書類を期日までに提出してください。

受給申請書類:(注1)

- (1) 理工情報系オーナー大学院プログラム  
奨励金受給調書
- (2) 誓約書
- (3) 振込依頼書(のちほどメールでデータをお送りします。)

(注1)受給関係書類作成にあたっては、申請時現在の所属・学年・学籍番号を記入してください。

申請書類提出期間及び場所:

書類提出期間:2020年4月1日(水)から2020年4月8日(水)まで

受付場所:理工情報系オーナー大学院プログラム事務局(豊中キャンパス 理 B101 室)

提出方法:上記場所へ持参してください。

2. 支給額

博士前期課程 年額 240,000 円 (予定)

博士後期課程 年額 540,000 円 (予定)

3. 受給決定者の通知

2020年4月下旬に、受給決定通知書を配付します。

4. 問い合わせ先

理工情報系オーナー大学院プログラム事務局(豊中・理 B101 室)

電話 06-6850-5293

プログラム責任者 殿

令和 2 年度 理工情報系オーナー大学院プログラム 履修学生対象給付奨学金受給調査

学籍番号 (記入日現在)		選抜試験時の 受験番号※	※新規履修生のみ記入してください。	
フリガナ		生年月日	年	月 日
氏 名	Ⓜ			
所属研究科 ／専攻		課程／学年	博士 (前期・後期) 課程 学年: 年	
連絡先	TEL ( ) - 携帯 -			
	E-mail :			
現在の在学状況 他の奨学金等、給付型経費の 受給状況	<input type="checkbox"/> 休学中ではありません。(チェックのみ)			
	<input type="checkbox"/> 以下の他の奨学金等、給付型経費を受給していません。または本年度中に受給する予定はありません。(チェックのみ)			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 日本学術振興会特別研究員(DC)〈翌年度にむけて申請することは可能です。〉</li> <li>・ 日本政府(文部科学省)奨学金【外国人留学生】</li> <li>・ 月額10万円を超える給付型奨学金 ※留学支援が目的のものを除く</li> </ul>				

\* 本書類に記入された個人情報は、給付奨学金受給者選考及び支給業務に使用します。

# 誓約書

プログラム責任者 殿

令和 年 月 日

研究科：

課程／学年：博士(前期・後期) 課程 年

学籍番号：

氏 名 印

生年月日 年 月 日生

私は、大阪大学理工情報系オーナー大学院プログラム履修学生対象給付奨学金を受給するにあたり、大阪大学理工情報系オーナー大学院プログラム履修学生対象給付奨学金実施要項（以下「実施要項」という。）の各条項に同意した上で、下記事項を守ることを誓います。

## 記

- 1 実施要項第2条第1号から第4号に定める受給資格があること。ただし何らかの事情により上記の資格を失ったときは、速やかに理工情報系オーナー大学院プログラム事務局へ申し出ること。
- 2 給付奨学金受給調書に虚偽の記載がないこと。
- 3 本奨学金を実施要項第1条第2項に定める目的のとおり使用すること。
- 4 重複受給が認められていない他機関からの奨学金支給が始まり、本奨学金と受給期間が重複した場合は、該当する期間分の本奨学金金額を大学に返還すること。



## APPLICATION FOR PAYMENT 振込依頼書（新規・変更）

**※変更の場合も全て記入の上、変更箇所に☑を付してください。**

TO OSAKA UNIVERSITY PRESIDENT

大阪大学長 殿

\* PLEASE FILL OUT IN **BLOCK LETTER**

\* **アルファベットのブロック体**で記入してください。

FACULTY NAME (COMPANY NAME etc.) MAJOR (DEPARTMENT etc.)

部局名  
(会社名など)

専攻名  
(所属など)

学外者の方は会社名・所属名などを記入してください。なお、部局名は、〇〇研究科と記入してください

フリガナ

NAME

氏名

SIGNATURE

印

大阪大学  
個人番号

※個人番号をお持ちの方は必ず記入してください。  
(不明な方は部局担当者にお問い合わせください。)

DATE OF BIRTH

生年月日

年

月

日

POSTCODE

〒

大阪大学  
学籍番号

※学生の方は必ず学籍番号を記入してください。

(令和2年4月に博士(後期)課程へ進学予定の場合は空欄にしてください)

HOME ADDRESS

住所

※**現住所を都道府県から**記入してください。

THE FOLLOWING IS THE INFORMATION FOR MY PAYMENT

大阪大学より支払われる旅費・謝金等は、下記の私名義の口座に振込ください。

記

BANK NAME

BRANCH NAME

銀行  
金庫

支店  
出張所

(※**ゆうちょ銀行の場合、支店名は3桁の漢数字**となります。)

預金種別 (KIND OF DEPOSIT)

ORDINARY

CURRENT

OTHERS

1. 総合・普通

2. 当座

3. その他

口座番号 (ACCOUNT NUMBER) (7桁)

(※**ゆうちょ銀行の場合、当行固有の記号・番号ではなく、振込用の口座番号(7桁)を記載**してください。)

※PLEASE FILL IN IF YOUR BENEFICIARY NAME IS DIFFERENT FROM THE NAME YOU WRITE ABOVE

口座名義フリガナ

BENEFICIARY NAME

口座名義

※ 外国人・旧姓使用の方で  
上記の氏名と異なる方は  
記入してください。

(上記の氏名と口座名義が同一の場合は記入の有無を問いません。)

※この振込依頼書を提出後、記載事項に変更が生じた場合は、速やかに変更届を提出してください。

登録依頼部局記入欄

※登録対象者の該当する区分を以下の4つのうちから1つ選び、○をつけてください。  
これにより債主コードが決定します。

・常勤職員

・非常勤職員

・本学学生

・学外者

※学外非常勤講師・招へい教員などで個人番号をお持ちの方は非常勤職員の区分、個人番号をお持ちでない方は学外者の区分です。

部局名

担当者氏名

内線番号

登録依頼日

※変更届の場合は、部局担当者が以下の「債主コード」欄に元の債主コードを記入してください。

債主コード



初版：令和2年4月1日

大阪大学

理工情報系オナー大学院プログラム事務局

TEL 06-6850-5293

[honor-jimu@office.osaka-u.ac.jp](mailto:honor-jimu@office.osaka-u.ac.jp)

居室：理学研究科 B棟 1F B101室

〒560-0043 豊中市待兼山町 1-1 大阪大学理学研究科内

